



ホトケノザ

3月8日（月）

春には多くの植物が花を咲かせます。一般には、雑草として扱われているようなものでも、よく見ると可憐な花を咲かせています。渡辺和子さんのエッセー集「置かれた場所で咲きなさい」を出すまでもなく、それぞれの場所で一生懸命生きて、小さな花を咲かせている姿は、誰かの心を癒し励ましています。今回は、その中からホトケノザを紹介します。

ホトケノザ（仏の座、学名: *Lamium amplexicaule*）、シソ科オドリコソウ属の一年草あるいは越年草。別名サンガイグサ（三階草）。春の七草に数えられる「仏の座（コオニタビラコ）」とは異なる。花期は3月から6月。白い花をつけるものもあり、シロバナホトケノザと呼ばれる。種子には白い物質が付着する。これにはアリが好むエライオソームと呼ばれる物質が含有しており、これによってアリの手で遠くまで運ばれ、芽吹くことが知られている。



コオニタビラコ（小鬼田平子）：キク科に属する越年草。タビラコ（田平子）やホトケノザ（仏の座）ともいい、春の七草の一つ。湿地を好み、田や周囲のあぜ道などに多く生える。初春の水田ではロゼット葉を広げて地面にはいつくばった姿で見られる。葉は羽状複葉で頂羽片が大きくて丸っこい。高さは10cm程度、早春には黄色の頭状花が咲く。若い葉を食用とする。

Wikipedia より引用。